

突然ですが、

大掃除をしませんか？

日本に比べたら比較的涼しい夏のベルギーで太陽に当たってポーッと過ごすだけではもったいない、と子どもたちと大掃除を始めました。いつかやらなければいけないと思いながら、つい後回しにしていたツケが回って、数日では終わらないくらい不用品を処理しなければなりません。全く「後悔先に立たず」というより「後悔後を絶たず」とことわざのパロディのようでした。

いつも思うのですが、人生の中で数回引っ越しがあるのは大変だけれども、そのたびに「最低限の物で生活する」「不用品をすぐに処分する」「買わないであるもので間に合わせる」などと考えるきっかけになるので、家に不要なものが増えないという利点があると思うのです。それに比べ、老後も引き続きベルギーで生活する、自宅を構えている、となるとつい不用品の処理は後回しになってしまいます。そして、仕事でも同じですが、毎年今度こそはと気合いを入れるのですが、長続きしません。もう、自分を反面教師として、自分のお尻を叩きながら(家族から文句を言われつつ)やらなければ、家がゴミ屋敷になること間違いなしです。そこで、期限付きで大掃除を開始しました。

①紙の処理

現代社会は、紙に埋もれた生活と言っていいほど、いらぬ紙が家の中に大量にあります。学校からの連絡事項、広告、請求書など、どんどん増えていきます。学校からの連絡プリントは、用が済んだら裏紙をメモ用紙として使用し、使い終わったらすぐに紙類回収の袋に捨てましょう。広告は、見終わったらすぐに回収袋へ。家の郵便受けに「NO PUB」と表示して、もらわないことも一手です。筆者は広告を見るのが好きなので、見終わったらすぐに回収袋に入れることにしました。請求書を受け取ったらすぐに支払いを済ませ、支払い



いを忘れて追加料金を請求されないようにしましょう。請求書だけは支払い状況を確認するときに必要なので、すぐに捨てないで、ファイルに保存しましょう。この時、項目別にファイルを整理しておく、いざという時にすぐに取り出せます。

②衣類の処理

古着が多い＝服を買い過ぎ、と判断し、今後は必要以上に衣類を購入しないように自覚しましょう。そして、長年着れるように、質のいいものを購入し大事に着ましょう。また、傷んでいないけれど、ちょっと流行を過ぎてしまった衣類は、Petit RienやOxfamなどで引き取ってもらい、必要な人に着てもらって、衣類が無駄にならないようにしましょう。特に子ども服は、子どもの成長とともにすぐに着れなくなってしまうので、友だちや知り合いで着れそうな年代の子どもを持っている家庭に尋ねてみるのも一案です。



③学用品の処理

思い出になるから、捨てるのはもったいないからと子どもたちが学校で使っていた文房具用品や、工作で作ってきた作品、教科書やノートなどを残していると、毎年あつという間に物が増えます。子どもが小学生のころは、全てのノートを箱に詰め保管したのですが、子どもが大人になった現在になっても一度も箱を開けたことはありません。どうして保管したのかな、本当に将来懐かしんで眺めてみるのかなと思いつつ、20年も保管していました。これらのものはもう絶対に要りません。子どもの絵画は数点だけ選び、額に入れて永久保存です。絵を見るたびに子ども自身も幼稚園や小学校時代を懐かしんでいます。



④本の処理

筆者は、読書は好きなのですが、読み終わった本を家に置いておくのは嫌いなのです。というのも、一度読んだら読み返すより別の本を読みたいし、新書を買って置いておくと、場所を取り埃まみれになって掃除が面倒と考えるのです。したがって、子どもにも「本は図書館で借りて読んでね」と言い聞かせ、最低限の本しか購入しませんでした。それでも家はもう読まないであろう本で溢れています。このままにしておくと、家は狭くなるばかりです。そこで友だちにあげたり、団体に寄付したり、プロカントに出品したり、とあの手この手で本を無駄に捨てないで活用してもらおうというのがモットーです。



かなり家がスッキリしましたが、まだ処分するものはありそうです。これからは、「物を増やさないために買わない」を徹底して、スッキリした家で快適に過ごそうと思います。皆さんも試してみてください。